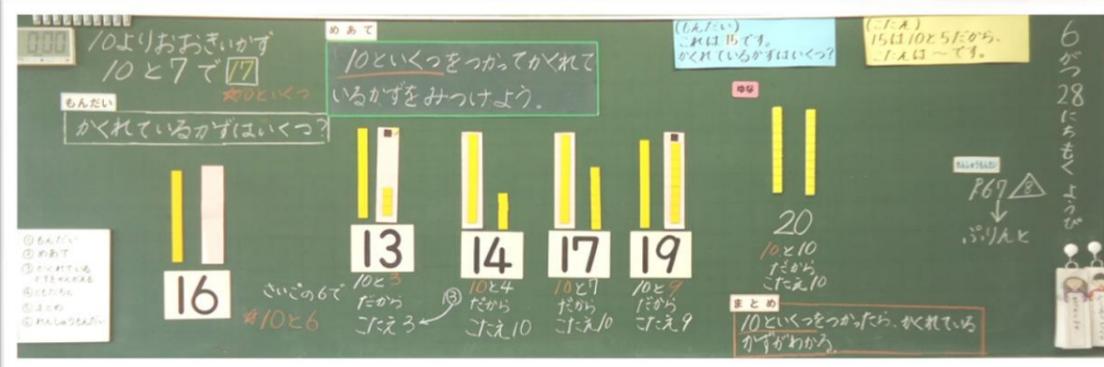


先週から、1学期の「見て見て」授業が始まっています。今回は、採用2年目の今城先生と1年目の武田先生の超フレッシュなお二人の授業を紹介します。1年生の今城先生は、20までの数を「10といくつ」として考えるところの授業でした。1年生の子どもにとって、「0と0で0」「0は0と0」と表すところは、つまずきの多いところ。また2年生の1L=10dLを使って単位換算するところも、上の学年になった時、他の単位と混同して誤りが多くなる場所です。子どもたちがより主体的に学べるように、楽しい活動を授業の中に取り入れ工夫されていました。

見て見ての授業より

6月28日(木) 2校時 単元名「10よりおおきいかず」
1年2組 今城 知亜希 教諭
本時の目標：20までの数の構成を理解する。



10といくつか
ブロックをかくして数を
当てるクイズをしています。

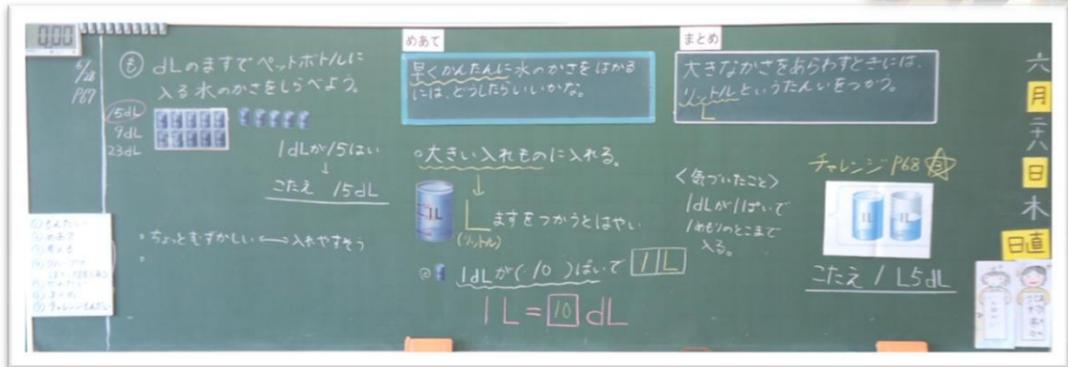


隣の友だちとお話中。
可愛らしい姿が見られました。

今城先生のリフレクションより

- 資** ゴールは、「13は10と3」という分解ができるようになることだったが、かくれている数と全体の数が混在してしまっている児童がいた。展開の活動の時にも、分解を意識させるべきだった。
- 主対深** 活動はできていても適用問題になるとできていないというのがわかったので、授業全体でゴール(できるようにならないといけないこと)を意識して、授業を変えていきたい。
- 見** 13は10と3という分解の見方と、10と3で13という集合の見方が混ざってしまっていたので、板書の書き方の工夫も必要だった。さくらんぼのような図で表したり、「答え」ではなく「かくれている数は」というように表したりして言葉にも工夫があった。
- 感** 主語・述語をしっかり押さえないといけないことを学んだ。本時では、「は」と「と」に着目して、集合なのか分解なのかきちんと区別できるようにすることが大切だと感じた。

6月28日(木) 3校時 単元名「水のかさ」
2年2組 武田 北斗 教諭
本時の目標：体積を表す単位「リットル(L)」について知り、
1L=10dLの関係を理解する。



かさを1dL ますではかると、15杯もあって大変でした。もっと早く簡単にかさをはかる方法はないかな。



武田先生のリフレクションより

- 資** 実際に1dL ますを使ってL ますに何杯入るか調べたことで、1L=10dLが10杯ということを経験させられたのはよかった。もう少し指示の徹底をするべきだった。
- 主対深** グループ活動を取り入れ、実際に体験をさせることで「主体的な学び」にはなったが、その前の全体の指示として終わった人から何をやるのかまで指示ができれば、もう少し「深い学び」へと持っていくことができた。
- 見** 実際にdL ます、L ますにふれさせることで、量感を養い、記憶にも残りやすいと思う。もう少し、具体物と実物を比較させることができればよかった。

武田先生に、授業の前日「今回の授業で先生の目標は何？」と教頭先生に聞かれ、「子どもをほめることです。」と答えているのを耳にしました。武田先生が子どもをほめようと意識して臨んだことが分かる授業でした。校長先生のミッションに「鍛えて ほめて、伸ばす」という言葉がありますが、改めて「ほめる」ということを意識していきたいと思ったことでした。特に低学年では、他の子どもがほめられる姿を見て自分もほめられようと頑張る姿が見られます。ほめられると、自信が付き自己肯定感も高まります。ほめる価値のあることを見逃さず、タイムリーにほめることをみんなで心がけていきましょう。

また、2年目の今城先生は事後研でアドバイザーの先生からたくさんほめていただいたようです。1年生になって3カ月の子供たちがしっかりと学べるように、細かなところまで配慮して授業している今城先生。適用問題ができた子どもにさらに練習プリントをさせ、1時間で充実した学びができていました。2年目とは思えない指導技術に、私も驚いたことでした。この1年でたくさんの方の力を吸収され、ぐんと力を伸ばしている今城先生の姿を見て刺激を受けたことでした。

これから先がまだまだ長いお二人の先生、のびしろは∞です。これからの更なる成長が楽しみです。